

アンデスに宇宙の目

アルマ望遠鏡 本格運用 チリ



各国の報道陣に公開された、アルマ望遠鏡のパラボラアンテナ12日、チリ・アタカマ高地

【でる】
【読む】
NIE

【アタカマ高地】がつくられた様子や惑星が生まれる仕組みの解明を目指す。

【チリ】 共同11 望遠鏡は標高2900メートルの山麓施設から遠隔操作する。式典は山麓施設で開かれ、チリのピエラ大統領や日本から国立天文台の林正彦台長ら計500人以上が参加。12日午後(同13日未明)には、パラボラアンテナが並ぶ現場を各国の報道陣に公開、密集した白いアンテナが一斉に同じ方向に首を振る。パフォーマンスも見せた。

して南米チリの標高5千メートルのアタカマ高地に建設した「アルマ望遠鏡」の主要部が完成した。アンデス山中から世界最高の「視力」により宇宙の謎に迫る電波望遠鏡で、本格運用の始まりを記念して13日午後(日本時間14日未明)、開所式が執り行われた。

アルマ望遠鏡は、日米と欧州主要国が1千億円かけて建設。宇宙空間を漂うアミノ酸など「生命の材料」を探るほかに、宇宙誕生から数億年後に銀河微弱な電波を捉える。